

思いを「かたち」に —平成 24 年度卒業課題審査会— Form the Passion in the Designing — The Final Defence of Diploma Project —

2月13日(水)に、都市デザイン研・空間研の学部4年生4名が、卒業課題の審査会に挑みました。メンバー全員が設計となった今回の発表では、それぞれのどんな思いが「かたち」に込められていたのでしょうか。
text_kitagawa

Closed Open - 断片空間再編計画 -



地上の交通インフラが集積する東京において、そのインフラで囲まれ、都市から切り取られた空間の再開発の提案を行いました。敷地は代々木駅の南で、山手線、中央線、首都高に囲まれた三角形の土地です。エッジの下をくぐって人の流動を引き込んできて、内部に多様な人が共存する都会の居場所を作ることを目指しました。

発表前日まで模型がほとんどできておらず、最後は研究室の先輩や発表の終わった同期、さ

らには羽藤研の皆様にも手伝っていただき、なんとか完成することができました。手伝って頂いた皆様への感謝は、本当に言葉にできません。ありがとうございました。自分の管理能力のなさを改めて痛感しました。



空間計画研究室 B4 芝原 貴史

行き交う - ものづくりへ誘う住・工の新たな関係 -



ネットワークの中心だった大工場が移転を余儀なくされ、下請けの町工場と跡地開発の集合住宅が残った大田区矢口。住・工をゾーニングによって純化させるのではなく、住・工の街区スケールの混在とみなしまし

た。その特色を強めつつ互いの街区を利用できるように、それぞれ人乗りシェア施設を持たせ、人の行き交う関係性によりものづくりに人を誘う、というコンセプトで設計を行いました。

大田のプロジェクトのお手伝いで出会ったある工場長が話していた、空調が無く、サッシを常に開けていた昔の工場の風景がとても心に残っています。建築でなく都市計画という側面から自分が何をできるのか、今後も考えていきたいです。



B4 高梨 遼太郎

緑の重なるまち - 甲府駅前シビックコアのカたち



甲府駅前の、集積した官庁機能と公共交通ターミナルという資源を生かし、そこで行われている市民活動に興味を芽生える空間を設計しました。

縮退する地方都市でも、市民が同じ生きがいを感じる仲間と生き生きと暮らせる。そして、甲府という街に愛着を持続してほしい、という思いを込めました。

都市工 B3 やサークルの後輩や同期、研究室の先輩、僕の適当な図面を修正して下さった

M1 児玉先輩には感謝の思いでいっぱいです。そして、最後まで愛のある指導をして下さった西村教授、窪田准教、黒瀬助教、Chris 助教、松田助教には重ねて御礼申し上げます。ありがとうございました。



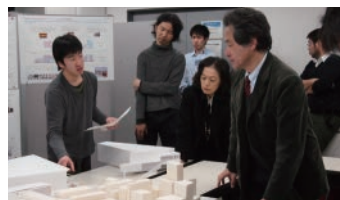
B4 丸山 裕貴

はじまりの辻



対象地は北千住駅東口で、辻空間に多様な機能を持たせ生かす事で対象地での人の流れを活性化させるというのがコンセプトでした。この卒業設計は M1、M2 の方々をはじめ多くの方々の協力なしには完成させ

る事は出来ませんでした。人に頼る、そのことの大切さを学ぶいい機会になったと思います。発表直前には学校に3日連続で泊まり込んだり、4月からの仕事(テレビのAD)の練習として椅子の上で寝てみたり、深夜の研究室で踊ったりと様々な経験をしましたが、今となってはいい思い出になっています。学生生活最後の年に卒業設計をやる事が出来てよかったなという想いを家でぬくぬくしながら噛みしめる今日この頃です。



B4 蓮尾 高史

"Road to Doctor"

An Essay by doctoral student vol.4!

人数の多い都市デザイン研究室。よりお互いの研究について知る機会を作ろう！ということで、博士課程のメンバーの研究内容に迫るコーナーです。第4回目はD3の森さんです。

「農村地域における集落保全概念とその実践的展開に関する研究

一富山県五箇山地域を事例とした歴史的環境保全から生活風景保全への転換に着目してー

D3 森 朋子

不動産開発の仕事に疑問を持ちつつも従事していた私は、4年程前あるきっかけで行った新島で、一朝一夕にはできない温かい空気に包まれ、ハッと、自分が今、積み重ねられた時間の表層にいることに気づきました。そして、この積み重ねられた層を守り、次に繋げる役目を自分が担いたい

と思ったことから、私の Road to Doctor が始まりました。人生、何があるかわかりません。

しかし今、様々な変化の中、離島や農村はその存在意義を失いかけていとも言えます。伝建地区に選定された農村も、建造物群の保存は共通認識として根付いたもの



相倉集落↓

▲世界遺産相倉集落と周辺集落



▲世界遺産菅沼集落の春祭り

の、将来何のために残してゆくのか、その理念を見つめ直す時期にいるのではないのでしょうか。限られた資源と厳しい環境のなか、人々が必然的に助け合って生活が営まれた結果としての農村集落。それを保存するとは何かを問い、五箇山を事例に答えを出したい、これが私の博士論文です。

現地調査では、先人の偉大な知恵に触れ、ただただ感動しています。また、集落・町並み保存初期の議論に触れると、当時手探りで模索した真剣なまなざしと同時に、法制度化という着地に向けた日本の解決も垣間見られます。今我々にできる最善に向け、一歩でも前進できればと思っています。

プロジェクト報告



大槌 Otsuchi-project プロジェクト

text_hagiwara

2月17日(日)に研究室OGの田中暁子さんら4名で、吉里吉里集落での黒森神楽巡行へ伺いました。国の重要無形文化財である黒森神楽は、岩手県宮古市を起点に、隔年で県内の北と南へ巡行する「廻り神楽」で、今年は大槌等を廻って遠野に至る南廻りです。民家に一行を迎え入れて、そこを舞台として舞が披露され、その民家は「神楽宿」と呼ばれています。この日の舞は集落唯一の「神楽宿」である佐野家で演じられました。

南廻り巡業は震災後初めてだったこともあり、震災で亡くなった方の供養と復興への願いを込めた舞や、観客を元気づけるような物語調のものなど、様々な演目が披露され、途中、近所の方が飛び入りで踊りに参加するなど大変盛り上がりしました。

また、19日(火)から2日間、赤浜集落で行なっている避難行動調査を冊子にまとめるため、地元公民館の皆さんへの追加ヒアリングや校正作業を行いました。まもなく完成となる予定ですが、地元で読み継がれる一冊になればと思います。



▲神様が宿に鎮座するための儀式



▲七福神の登場で地元の方も乱入

常葉大有志が研究室訪問!

text_omori



▲安田講堂前にて記念撮影!

2月11日(月)に、11月の清水PJ「ミナトブンカサイ」で多大な協力を頂いた、常葉学園大学造形学部の土屋先生と有志の学生が、都市デザイン研究室を訪れました。旧交を温めると同時に、今年度報告書の打ち合わせと東大構内・谷根千の見学を行いました。過去に研究室で作成した本郷マップと谷根千まちあるきマップが非常に役に立ち、研究室の歴史の積み重ねに感謝すると共に、有意義な時間を過ごすことができました。

2・3月の予定

2月27日	第18回研究会議
3月10~11日	五箇山PJ現地訪問
3月14日	佐原PJ現地報告
3月15~17日	清水PJ大分港現地調査

Information

* 編集後記

北川 貴巳

数ヶ月に渡る研究活動の影響もあり、最近は音楽に凝っています。みなさんは、どの時代のポップ・ミュージックに思い入れがありますか。普通であれば、10代後半から20代前半にかけての青春時代に聴いていた曲ですね。しかし、私の場合は、青春時代の少し手前の90年代のJ-Popなんです。青春時代とタイムラグがあるにも関わらず、過去の体験や情景が蘇ってくるようなメロディーラインは自分の青春時代にピッタリと当てはまるのがとても不思議です。そんなメロディーを聴きながら、いつ聴いても色褪せることのない曲や音楽をこれからもどんどん増やしていきたいなあ、と感じた、貴重な研究活動期間でした。